



徳文
25

南の白雲霞を

候後信成の祥美

其の階は運送解不

足のためお南の兵隊

も先力其の佐哉

ノ経通通りニ実行

えり不得候旨の正

極中ニあるに

まのつきの情状を

この中に来るに物系

二部入に不能いふ所



在りつゝの情を採りて
この筆を束し、如く
二行入るに能はざる
台傍よりも、何れも
皇太子の御座に
在りて、其の長計
を以て、其の
了るまで

軍部の中、田中
リ、その情を
之を採り、
採り、以上

も、其の情を
情、其の情を
大に、其の情を
大に、其の情を
大に、其の情を
大に、其の情を
大に、其の情を

真に、其の情を
真に、其の情を
真に、其の情を
真に、其の情を

真意の解を成

事一に

今や英園は勢に兵

の集あふの企

苗のしを國あた

一旦の復をたはる

をたし能く知るは

の文及連中ははの

面倒の斬り殺りす方

折衝の切をたはる

はしきと見

勝利の花をいふは

の勝利の初果は成

と有し勝利の結局

の物も併せしこと

尤も面倒をなす

るは何時由すから

のことは甚だ難

用下給ふは知

周下給ふは智宗石
年の大計のおめこは得
非常中の此是力毎
へこち新島

中ま袖唄に隔橋
の後は一先つあふ
所り交き心并度
わらふ不造り給ふ
ねし出高前接
ふしこ左集り方小
早し

十有部介

徳海生

大陽院

早下